

2-6-6 めいすいひやくせん 名水百選 おしょうず 御清水

おしょうず 御清水の由来 ゆらい

御清水は天正4年（1576）織田信長の部将金森長近が城下町大野を築いたとき、城郭内の生活用水として設けたのが始まりとされ、400年以上の歴史がある湧水地である。かつて城主の飯米をかしぐ（炊く）のに用いられたことから、敬意を表して「御清水」あるいは「殿様清水」と呼ばれ、永きに渡り市民の生活の場として、また社交の場として愛され守られている。

めいすいひやくせん 名水百選・みず ふくいのおいしい水

昭和60年7月22日、伝統と生活に密着した御清水は、環境庁が定めた「名水百選」に認定された。この選定の基準としては、水質・水量・周辺環境・親水性の状態がよく、地域住民等による保全活動が行なわれていることを必要条件とし、その規模や昔からのいわれ、希少性・特異性・著名度等が考慮されてる。

また、平成18年1月には複井県の「ふくいのおいしい水」にも認定されている。

ちかすい 地下水位の変動 へんどう

地下水位は降雨の影響などを受け常に変動しているが、その変動の仕方には年間を通じて一定のパターンがみられる。雪解け時期、田に水を張り始める時期、梅雨および台風時期に水位は大きく上がり、8月中旬頃にその年の最高水位を記録する。その後、水田から水が落とされると地下水位は急激に低下し、11月頃に最低水位を記録する。

御清水ではステンレス製の臼の部分は常にポンプアップされているが、地下水位が上がってくると、地下から地表面へ自噴をはじめる。

御清水では水位が1.0m～0.9m位になると鉄管より自噴をはじめる。

説明板より